

「北山杉・北山台杉をデザインで未来につなぐ」

京都芸術大学
専任講師 藤野 良実
教授 東丸 大範

▶事業概要

600年続く育林技術×デザイン×未利用資源の有効化

北山杉の大鋸屑や北山台杉の剪定材などの副産物(未利用資源)を利用し、製紙、製糸、製織の工程で製品をデザイン、開発し、北山杉・台杉を国内外へ発信。木材に付与する新たな価値として幅広い世代に向けた北山杉の認知拡大を目指す。

現在、京都府の木としても指定されている北山杉は、現代のライフスタイル、居住空間の変化と共にその需要が減少し、600年以上続く伝統技術(育成技術)が数年後には存続が危ぶまれている現状として現在がその過渡期だと考える。

中でも台杉は一度の植林で、何十年、何百年と何度も伐採を行うことができ、その育林技術は独自の発展を遂げているが、後継者不足による技術継承が難しい状況の中、未利用資源に価値が生まれると後継者育成への資金、産業の継続にもつながると考える。

Curelabo株式会社協力のもと副産物を和紙、布地として展開し、そこから京都市のカフェGarden Labへユニフォームを製作、提案を行う。



▶事業実績

京都市でカフェを運営するGARDEN LAB株式会社に対し学生の考える北山杉を活用したアイデアをプレゼンテーションとして実施。Curelabo株式会社協力のもと北山杉の副産物からできた布地からカフェの制服を製作。

実際に採用となるかは現在検討中。



▶今後の活動

今回のGARDEN LAB株式会社へのご提案を同業種他企業へも展開したところ、京都市内のインバウンド向けホテルから採用を検討したいとご相談を受けている。想定しているカフェだけではなく、ホテルへの導入も可能な事案と考える。

ただし、素材開発にかかる初期費用が高額となる為、既存企業への導入はハードルが高く、新規出店やインバウンド向け企業のホテル、カフェに向け提案できる場を求めていきたいと考えている。

本事業内容は多くの方から賛同いただき今後発展の余地がまだまだあると実感しているが、北山杉生産者の高齢化、継承問題は日を追うごとに深刻となっていることを念頭に置き今後も進めていきたい。

▶参加学生

空間演出デザイン学科 12名、プロダクトデザイン学科 8名